

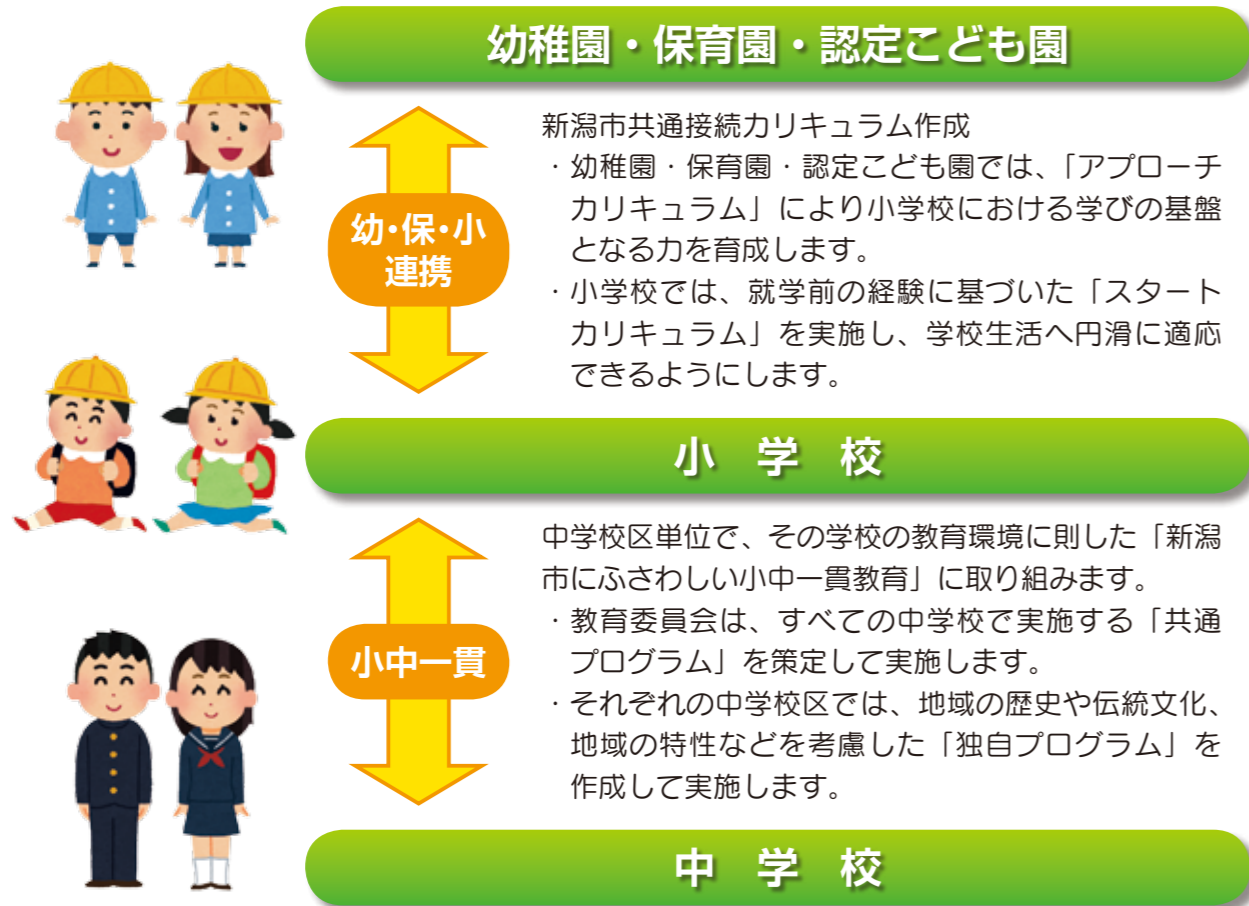
# 特集 新潟市の一貫教育について

新潟市教育委員会は、本市が目指す子どもの姿「学力・体力に自信をもち、世界と共に生きる心豊かな子ども」を実現するための施策の一つとして、就学前から義務教育終了までの一貫教育を実施するための準備をすすめています。

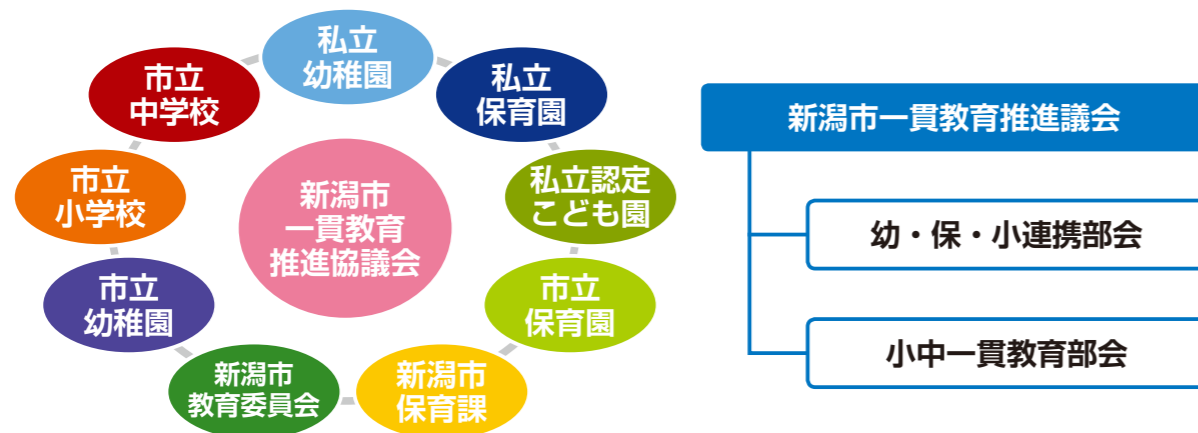
ここでは、新潟市がすすめている一貫教育の概要についてお知らせします。

<問合せ先 教育総務課 TEL 025-226-3177>

## 1. 新潟市がすすめる一貫教育のイメージは、次のとおりです。



## 2. 新潟市の一貫教育は、私立の幼稚園・保育園・認定こども園の代表が参加しており、官と民が一体となってすすめます。また、協議会には2つの部会を設けて、それぞれの部会で一貫教育の内容について検討協議しています。



## 3. 一貫教育の目的は次の3つです。

- 1 確かな学力の獲得**  
 ・社会の変化や新たな課題に対応できる生きて働く力の獲得など
- 2 学校(園)間の滑らかな接続**  
 ・不登校やいじめ問題の早期発見・即時対応、小1プロブレムや中1ギャップの解消など
- 3 教職員の資質の向上**  
 ・教育関係職員の専門性・指導力の向上、異なる学校(園)種の理解促進など

## 4. 新潟市にふさわしい小中一貫教育を実践研究するパイロット中学校区は、次のとおりです。

平成28年度パイロット校	平成29年度パイロット校
・新潟柳都中学校区 (中央区)	・木崎中学校区 (北区)
・両川中学校区 (江南区)	・東石山中学校区 (東区)
・味方中学校区 (南区)	・新津第一中学校区 (秋葉区)
・潟東中学校区 (西蒲区)	・赤塚中学校区 (西区)



## 5. 新潟市共通接続カリキュラムを先行実践する幼・保・小連携モデル園は、次のとおりです。

平成29年度モデル園
・学校法人恵愛学園愛泉幼稚園 (中央区) ・市立小合東幼稚園 (秋葉区)

※保育園のモデル園については、現在調整中で、年度末までに選定する予定です。

## 健やか地域づくり

### 地域を元気にするコミュニティビジネス入門 ~地域貢献活動の持続可能な事業化を考える~

平成26年に、元総務大臣で「日本創生会議」の増田寛也氏が「地方消滅」という本の中で「2040年までに896の自治体が消滅する」という衝撃的な発表を行ったことから、平成27年は国をあげて地方創生をすすめる契機となり、『地方創生元年』と位置づけられました。この年に、持続可能な地域づくりに役立てることを目的として、「とよさか未来塾」で開催したコミュニティコーディネーター育成事業がこの講座です。

コミュニティビジネスは、地域の課題解決を第一の目的として、地域住民が活動主体となり、ビジネス手法で持続可能を実現する点が特徴です。期待される効果は、『コミュニティの再生』と『地域経済の活性化』を同時に達成できる点にあり、スピード感があります。

各自が、それぞれの課題解決に向けて地域の資源からサービスや商品を設定し、いかに稼ぐかを考える過程で、マイナスの要素が実は宝物だったと気づかされたり、コミュニティ協議会でも儲けてよい等と考えたりしながら、明るくプラス思考で事業計画書を完成させました。

受講生からは「新しい視点を教えられた」「今後の活動に生かしたい」等の感想が聞かれました。

<問合せ先 豊栄地区公民館 TEL 025-387-2014 >



### 食育ミニフォーラム in 東石山 ~東石山中学校~

今年度、東石山中学校では、保護者、地域住民及び関係機関と協働して食育に取り組んでいます。全校生徒が「食への意識」を高め、食にかかわる生活習慣の改善を目指しています。

12月10日(土)に『ウェルカム参観日』として【食育ミニフォーラム】と【食についての授業公開】を実施しました。食育ミニフォーラムでは、保健給食委員会が、実態調査の分析を基にした当校生徒の食に関する課題を発表し、問題意識を高めました。

その後、光晴中学校の齊藤公二栄養教諭(公認スポーツ栄養士)による「夢をかなえる食事」と題した講演を聞き、食の大切さを再認識しました。

また、県栄養士会のご協力をいただいたワークショップ授業では、当日までに一人一人が摂った食事記録を分析し、食習慣の改善プランを考える企画に全校生徒が挑戦しました。この取組は実感を伴った食への意識の向上につながりました。今後も、学校を含めた地域ぐるみで「食への意識」を高め、健やかな地域づくりをすすめていきます。

<問合せ先 保健給食課 TEL 025-226-3209 >

